

研究結果報告書

研究結果

本研究は、革命への留学生の関与という革命史の一部としてではなく、旧制高等学校や帝国大学の教育を受けたことが、やがて中国の近代化にどのような影響を与えていったのかを究明することを目的とする。

具体的には、京都大学 大学文書館、東京大学駒場博物館所蔵の中国人留学生関係資料を整理したうえ、中国第二歴史档案馆（南京）ほか図書館の史料を発掘し、とりわけ留学生帰国後の活動について調査・研究を行なう。帰国後における留学生のライフストーリーを、聞き取り調査を通じて記録し、東アジアにおける日本留学の現代的な意義を再考する。

以上の作業を通じて、主として以下のような結論を出すことができた。第一に、二十世紀初期の留学生は帰国後、中国の近代科学とりわけ採鉱学（嚴恩械）、地質学（章鴻釗）、化学（李敦化）の基礎を築きあげたなど、重要な役割を果たした。また、30年代以降の留学生は、科学（蘇歩青）だけではなく、文学（鄭伯奇、夏衍）や文化交流（郭沫若、喬冠華）の面においても、二十世紀をわたって大きく寄与した。そして第二、戦後に帰国した留学生は、複雑な日中関係にも挟まれ、陰ながら近代中国の建設に力を捧げてきたものの、一部の人（郭沫若、喬冠華）を除いてその事実さえ、公にされることがなかった。今になっても日本留学の記憶について、容易に口を開けなかった人もいた。

総じて本研究は、留学生を回路とした人間形成を考えるだけでなく、学問と人が国家の枠をこえて激しく交流する国際化時代において、知と人の交流・移動のもつ意味について新たな視点を得ることができた。それは、国家的対立が目立つ21世紀の東アジア・世界のあり方を考えるにも、有効な視座を提示することができると思われる。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

「帝国大学・旧制高等学校の中国人留学生に関する研究」、嚴平、「留学生と辛亥革命」及び第二回中国留学文化国際シンポジウム、2011年8月27日、北京・人民大会堂

「日本留学と近代中国社会建設」、嚴平、辛亥革命と留日学生シンポジウム、2011年9月17日、北京・中国工程院

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

「帝国大学・旧制高等学校の中国人留学生に関する研究」、嚴平、『「留学生と辛亥革命」及び第二回中国留学文化国際シンポジウム論文集』、2011年8月、412-420

「特設高等科中国人留学生研究——『向陵時報』の記録を中心に——」、嚴平、『四川大学学報』に掲載予定、2012年6月

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）